# センター通信第一〇〇号刊行を迎えて

画像史料解析センター長　高橋慎一朗

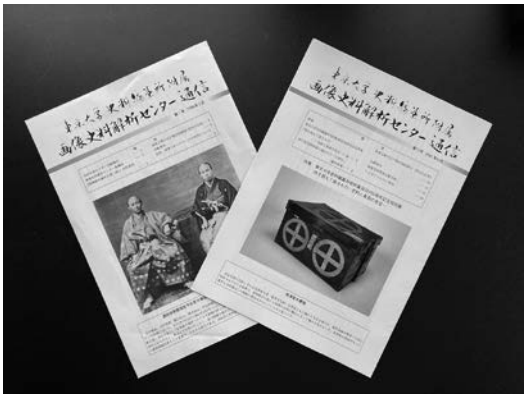
『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』という大変長い正式名称を持つ本誌（以下、「センター通信」と略す）は、今号で無事に通算一〇〇号の刊行を果たすことができました。これもひとえに、センター開設以来、編集や執筆に携わった方々をはじめとして、さまざまな形でご協力くださった関係のみなさまのお蔭であり、現センター長として厚く御礼を申し上げます。

画像史料解析センターは、一九九七年四月一日に開設され、その年度末にあたる一九九八年三月に、記念すべきセンター通信第一号が刊行されたのです。今、あらためて第一号を手にとってみますと、モノクロ図版のみの全八ページという体裁で、昨今のセンター通信と比べていくぶんコンパクトではありますが、題字や、巻頭に目次と大きな図版を掲げるスタイル、「史料紹介と研究」「文献案内」を中心とする誌面構成などは現在のセンター通信とほぼ同一で、そのまま以後の号に受け継がれて現在に至っていることがわかります。

センター開設二年目以降は、センター通信は原則として年に四回の刊行を維持してきています。その積み重ねの結果、昨年度（二〇二二年度）の四月にセンターが開設二十五周年を迎えたのに続き、二〇二三年四月には第一〇〇号という節目の号に到達することができたのです。

以下は筆者の個人的見解になりますが、これまでのセンター通信のなかで特に注目される号をあげてみたいと思います。第一五号（二〇〇一年一〇月）は、刊行直後に東京国立博物館で開催された東京大学史料編纂所・東京国立博物館共催の特別展「時を超えて語るもの―史料と美術の名宝―」に連動した特集を組み、展示のガイダンス的な機能を持っています。第二四号（二〇〇四年二月）には、特集「画像史料解析センターの七年」として、初期のセンターを牽引された各氏の貴重なコメントが掲載されています。続いて、第三八号（二〇〇七年六月）は、画像史料解析センター開設十周年記念の特別号で、研究プロジェクトの報告一覧などの記事があります。また、第六六号（二〇一四年七月）からは、日常的な活動の記録を綴った「活動抄録」の欄が新たに設けられました。

そのほか気になる号をあげればきりがないのですが、すべてのセンター通信の既刊分については、東京大学史料編纂所のウェブサイト内の「画像史料解析センター」のページから総目録を閲覧することができます（https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/gazo/centernewslist.htm）ので、こちらから内容を概観していただきたいと思います。

加えて、二〇二〇年度からは、東京大学学術機関リポジトリ（https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/）において、近刊分の誌面のインターネット公開に着手しています。現在は第八七～九八号および五〇号別冊（第一～五〇号総目次）のPDFデータを、閲覧およびダウンロードできるようになっています。より広い読者への発信を意図したものですが、精細な画像を比較的制約が少ないかたちで掲載できる、従来の紙媒体でのセンター通信も引き続き維持していく方針です。なお、今回の第一〇〇号刊行を契機として、第五一～一〇〇号総目次の電子データを作成し、先述のリポジトリから公開をいたしました。

昨今のセンター通信の刊行をめぐるさまざま環境は、必ずしも楽観視できないところがありますが、今後も画像史料解析センターおよびIR広報室のスタッフを中心に、定期の刊行を続けていきたいと考えておりますので、関係するみなさまの変わらぬご支援をお願いいたします。